

6. 計画実施における配慮事項

6.1 環境に配慮した復旧工事の推進

長大な砂浜が形成されている仙台湾沿岸には、多くの生物が成育・生息しており、海岸保全施設の災害復旧等にあたっては、自然環境に配慮した施工が求められる。このため、各箇所における自然環境（動植物等）への配慮事項について、各分野に精通している有識者等から助言・指導を得て、確実に工事施工に反映させ復旧工事を推進する。また、必要に応じて、工事中・工事完成後のモニタリング調査を行う。

○ 工事中における動植物等への配慮事例

配慮すべき動植物	工事中の配慮事例
全 般	① 工事区域を区分し、動植物の生息空間を確保 ② 工事用道路を陸側に寄せる、片側通行とするなど影響範囲を最小とする ③ 工事前、工事後のモニタリング調査
海浜植物	① 種子・苗の採取・移植 ② 表土の取置き・再覆砂（締固めしないよう留意）
水生動植物（魚類含）	① 汚濁防止フェンスの設置 ② 工事用仮設道の撤去 又は、水中部へ再利用し藻場の基盤材とする
底生動物	① 生息域の底土移植 ② 構造物前面の埋戻土高の調整
昆虫類	① 幼虫時期の工事着手を控える ② 代替繁殖区域の確保（既存土の移設）
鳥類	① 飛来時期の工事内容の調整 ② 仮営巣地の確保

6.2 計画の適切な遂行と柔軟な見直し

各市町の復興まちづくりと調整し計画策定しているが、各市町のまちづくりの進捗により、社会経済状況の変化による計画の見直し等が求められることも考えられる。また、予見できない地形変動等により、本計画では背後地の安全性が確保できないことも考えられる。このため、必要に応じ、計画の柔軟な見直しを行う。

6.3 漂砂系一貫の土砂管理等の推進

砂浜海岸の侵食は、河川からの供給土砂の減少や隣接海岸からの沿岸漂砂の遮断等が根本的な原因である。一方、河川・ダム・砂防ダム等においても、堆砂によりダムの機能低下や計画河道を確保できない等の問題が生じており、適切な土砂管理が急務となっている。また、海岸域における堆砂域においても河口、漁港・港湾等の機能維持の問題が生じている。

このことから、土砂の生産域からダム、河川、海岸といった漂砂系一貫の総合的な土砂の管理を行なうために、海岸域のみならず、河川・ダム等の管理者とも連携することにより、土砂の有効的・計画的な活用等、適切な土砂管理を推進する。

6.4 より良い海岸域の創出に資する新技術・工法等の活用

海岸域の物理現象や生態系については未解明な事項も多く残されている。自然環境の保全、コスト削減を図るための新技術・工法等を積極的に利用する。

6.5 各行政機関間の連携の強化

海岸域の整備・管理においては、隣接する海岸や背後地等広い範囲に影響が及ぶ可能性があることから、計画の実施にあたっては、海岸管理者のみではなく、関連する他の行政機関とも密接に連携を図る。